

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長
●	●	●	●	●	●	●	●

様式第12号

令和5年1月30日

鶴岡市議会議長 様

鶴岡市議会公明党

代表 黒井浩之

政務活動費調査・研修計画書

下記のとおり、調査・研修を計画しておりますのでお届けします。

期 日	令和5年2月13日 ~ 令和5年2月14日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	埼玉県草加市、品川区義務教育学校
調査・研修 項目(目的)	〈草加市〉リノベーションによるまちづくりについて学ぶ 〈品川区〉義務教育学校の取り組みについて学ぶ
交通手段	・私鉄 ・飛行機 ・タクシー ・バス
行 程	<p>2月13日 (午前) 8:45 庄内空港～(飛行機)～9:50 羽田空港～(電車移動) (午後) 【草加市役所】～都内宿泊</p> <p>2月14日 (午前) 【品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園】 (午後) ～(バス)～15:55 羽田空港～(飛行機)～16:55 庄内空港</p> <p>※詳細は別紙のとおり</p>



令和4年度 鶴岡市議会公明党 行政視察行程表

月日	行 程	備 考
2/13 (月)	<p>8:45 9:50 (約1時間) 庄内空港 ~ 羽田空港 …… (電車移動) ……</p> <p>13:30~15:30 (草加市内昼食) …… 【草加市役所】 ……</p> <p>(約1時間) (電車移動) …… 都内宿舎</p> <p>〔宿泊〕 品川プリンスホテル 港区高輪 4-10-30 TEL 03-3440-1111</p>	<p>電車： 東武スカツリーライン等</p> <p>※リノベーション店舗で 昼食予定</p>
2/14 (火)	<p>9:30 10:00~12:00 宿舎発 …… (タクシー移動) ……</p> <p>…… 【品川区義務教育学校】 品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園</p> <p>13:00 13:33 ……大井町駅バス停 …… (バス移動) ……</p> <p>15:55 16:55 羽田空港 ~ 庄内空港</p>	<p>〒142-0043 品川区二葉 1-3-40 TEL03-3782-2930</p>

〈研修項目〉

- 1 埼玉県草加市「リノベーションによるまちづくりについて」
 - ① 行政がリノベーションに取り組むきっかけについて
 - ② そうかリノベーションまちづくり事業の概要について
 - ③ リノベーションスクールの成果と今後の取り組みについて
 - ④ 民間事業者と行政のかかわりについて
 - ⑤ 事業実施にあたっての予算と財源について

2 品川区「義務教育学校の取り組みについて」

○訪問校【品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園】

- ・ 幼保一体施設やすまいるスクールが併設
- ・ 7年生～9年生が保育ボランティアとして交流内義務教育学校

- ① 義務教育学校化に取り組んだ理由について
- ② 12年間を通じた教育カリキュラムのメリットについて
- ③ 小中一貫校と義務教育学校の違いについて
- ④ イジメの悪化や卒業式がないことでリーダー性が育ちにくいなどの点について
- ⑤ 子ども、保護者、教員の小中一貫教育についての受け止めや感想など
- ⑥ 子どもの様子で一般の小中分離型と異なって評価できる点、物足りなく感じる点など
- ⑦ 検討にあたっての着眼点、さらに参考にすべき他市の事例など

係	専門員	係長	主査	主幹	局長	副議長	議長
●	●		●	●	●	●	●

様式第13号

令和5年2月28日

鶴岡市議会議長 様

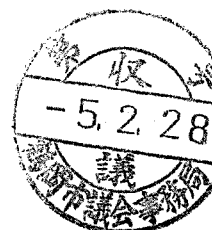
鶴岡市議会公明党

代表 黒井浩之

政務活動費調査・研修報告書

調査・研修が終了いたしましたので、報告します。

期 日	令和5年2月13日 ~ 令和5年2月14日
参加者氏名	富樫正毅、秋葉雄、黒井浩之
場所・会場	埼玉県草加市、品川区義務教育学校
調査・研修 項目(目的)	<p>2月13日 【草加市役所】 ・リノベーションによるまちづくりについて学ぶ</p> <p>2月14日 【品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園】 ・義務教育学校の取り組みについて学ぶ</p>
調査・研修 の内容及び 所 見	詳細は別紙資料のとおり



令和4年度 鶴岡市議会公明党 行政視察行程表

月日	行 程	備 考
2/13 (月)	<p>8:45 9:50 (約1時間) 庄内空港 ~ 羽田空港 …… (電車移動) ……</p> <p>13:30~15:30 (草加市内昼食) …… 【草加市役所】 ……</p> <p>(約1時間) (電車移動) …… 都内宿舍</p> <p>[宿泊] 品川プリンスホテル 港区高輪 4-10-30 TEL 03-3440-1111</p>	<p>電車： 東武スカツリーライン等</p> <p>※リノベーション店舗で 昼食予定</p>
2/14 (火)	<p>9:30 10:00~12:00 宿舍発 …… (タクシー移動) ……</p> <p>… 【品川区義務教育学校】 品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園</p> <p>13:00 13:33 …大井町駅バス停 …… (バス移動) ……</p> <p>15:55 16:55 羽田空港 ~ 庄内空港</p>	<p>〒142-0043 品川区二葉 1-3-40 TEL03-3782-2930</p>

〈研修項目〉

- 1 埼玉県草加市「リノベーションによるまちづくりについて」
- ① 行政がリノベーションに取り組むきっかけについて
 - ② そうかリノベーションまちづくり事業の概要について
 - ③ リノベーションスクールの成果と今後の取り組みについて
 - ④ 民間事業者と行政のかかわりについて
 - ⑤ 事業実施にあたっての予算と財源について

2 品川区「義務教育学校の取り組みについて」

○訪問校【品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園】

- ・幼保一体施設やすまいるスクールが併設
- ・7年生～9年生が保育ボランティアとして交流内義務教育学校

- ① 義務教育学校化に取り組んだ理由について
- ② 12年間を通じた教育カリキュラムのメリットについて
- ③ 小中一貫校と義務教育学校の違いについて
- ④ イジメの悪化や卒業式がないことでリーダー性が育ちにくいなどの点について
- ⑤ 子ども、保護者、教員の小中一貫教育についての受け止めや感想など
- ⑥ 子どもの様子で一般の小中分離型と異なって評価できる点、物足りなく感じる点など
- ⑦ 検討にあたっての着眼点、さらに参考にすべき他市の事例など

リノベーションによるまちづくりについて (草加市)

2月13日

報告者 富樫正毅

【草加市の概要】

草加市は、埼玉県 of 東南部に位置し、市域の南部を東京都足立区に接しています。綾瀬川下流域にひらけた東西 7.24 km、南北 7.6 km、総面積 27,46 km² の都市です。

昭和 33 年 11 月 1 日、人口 3 万 4878 人で市制を施行。昭和 37 年の東武伊勢崎線と地下鉄日比谷線の相互乗り入れや、当時マンモス団地といわれた松原団地の造成等により、昭和 38 年に人口が 5 万を突破し、昭和 43 年には、県下 8 番目の 10 万都市になりました。

東京近郊という立地条件の良さも相まって、昭和 50 年代後半から人口は急激に増え、現在では 24 万人を超える都市となっています。草加市では、地球環境をはじめ、少子高齢化、高度情報化、国際化といった時代の変化をしっかりと見据えながら、「いつまでもこのまちで暮らしたい、このまちで子どもを育てたい」と思われるような快適都市の実現をめざし、市民と行政のパートナーシップにより、まちづくりを進めています。

【研修概要】

リノベーションまちづくりとは

まちのことをよく知り、まちの方とのつながりや、自分のやりたいことを活かす。地域経営課題の解決を目指し、今ある地域資源を活用し、志ある市民がまちの新たな魅力となるコンテンツの創出を通して「ほしい暮らしは自分でつくる」を実践する。市民自らの活動による新たなコミュニティ、そして、まちへの愛着と共感の輪の広がりからさまざまな取り組みが絡み合い、まち全体の魅力が高まっていく。

リノベーションスクールとは

市内外から集まった受講生が「ユニット」と呼ばれるチームを組み、さまざまな地域資源を活用しながら地域経営課題を解決する事業計画を作成するワークショップです。地域に必要なサービス、まちで暮らす人々が豊かになるビジネス、まちに面白い人が集まる仕組みなどを検討し、最終的には、対象案件のオーナーや地域住民へ事業化を前提とした公開プレゼンテーションを行う「短期集中実践型スクール」で、終了後、受講生自らが事業計画の

実現を目指します。

しえ

リノベーションスクール参加者の声

チャンスはみんなに平等ではない。ただ巡ってくるもので、それがチャンスだと思える心の準備ができているかどうか。そのきっかけになるのがリノベーションスクール。きっかけを求めている人には良いワークショップだ。

事業をやり始めてからが大変だ。リノベーションスクールに参加したからといって必ずしも成功するわけではない。開業する過程でひとつの通過点に過ぎないので早いうちに経験したほうがいい。色々考えすぎず、悩んでいたらとりあえずやってみよう。

誰かがやるから、やるのではなく、やりたいことを、今自分の手元の手練り寄せることができるのがリノベーションスクール。できない言い訳を考えているなら、まずは参加してみると良いかもしれない。これまでの自分の常識を覆してくれるきっかけとなると思う。

そうかりノベーションまちづくり協議会

そうかりノベーションまちづくり構想を実現するため、そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会の委員を中心に、平成28年5月20日に設立されました。現在では、リノベーションスクールから生まれた家守会社等やそうかりノベーションまちづくりに共感する人などが加入し、相互に協力しながらリノベーションまちづくりを進めています。

事業を継続するために行政がやるべきこと

- 1, 民間まちづくりに「公共」としての信任を用意
 - ・そうかりノベーションまちづくり構想
 - ・都市再生推進法人制度の導入
- 2, 多様なファイナンス支援
 - ・草加市産業新成長戦略支援融資制度補助金の創設
 - ・「さいしんビジネスファンド」の造成
(民間都市開発推進機構×埼玉県信用金庫)
- 3, 組織と人から事業継続を担保する
 - ・伴走支援専門部署「リノベーションまちづくり推進係」設置
 - ・地方創生推進交付金の活用

【所感】

鶴岡市におけるリノベーション事業は平成 27～29 年に、空き家等遊休不動産の再生利活用を図るとともに、新たなまちづくりに係るプレイヤーの発掘・育成を目指すべくリノベーションスクールを実施していた。

しかし、「対象案件の事業化に至らなかった」「総合的な地域づくりを行う<家守>（民間自立型のまちづくり会社）の立ち上げに至らなかった」「空き家等はあるものの、提供してもらえる物件が少ない」「起業意欲のある人材はいるものの、資金面や希望する条件（場所や面積等）とのミスマッチがみられた」等の理由により、3年間で事業の中止に至っている。

しかしながら「まちづくり」は息の長い取り組みである。草加市では、リノベーションまちづくりを空き家対策ととらえるのではなく、「都市政策」としてとらえている。

本市には、起業意欲のある人材がいるということは確認できている。それぞれを結びつけ、ネットワーク化し、行政がバックアップできたらと思います。国土交通省のリノベーション事業に対する施策も改善しつつ、事業者・地方自治体にとって、使いやすいものに変化しているとの事である。リノベーション事業は空き家対策、都市再生のみならず、新たなコミュニティを生み出し、地域の活力を向上させる取り組みであり、草加市は成功例である。

本市行政でも草加市の事業を調査・研究していただきたいと強く願うものである。

（詳細は添付資料を参照）

東京都品川区

○義務教育学校の取り組みについて

黒井 浩之

1. 視察日時 令和5年2月13日 10:00~12:00

2. 視察事項 義務教育学校の取組について

訪問先：品川区立豊葉の杜学園・二葉すこやか園

説明者：二宮統括校長、教育委員会事務局富田係長、増田指導主事

校舎案内者：村田学校地域コーディネーター

3. 東京都品川区

・人口：404,196人 ・面積 22.84 平方キロメートル

4. 施策の概要

【豊葉の杜学園】

〈義務教育学校のメリット1〉

- ・最大のメリットは小中という言葉がなくなったこと。
- ・最初は先生の意識は小と中は全く別々。45人の小学校教員と50人の中学校教員と一緒にいるだけでお互いの子どもへの接触もないし、ほぼ担任で回す中では理解しえないものが、少しずつ一緒にいることで理解が進むようになってきた。
- ・小学校の教務主任や中学校とは最初、小と中の言葉（言い方）を使うのはやめようということで話をした。入れ替わってもできるようにしようと小と中で理解しあうことに努めた。
- ・どういうところで良さを引き出そうとしているのか、小学校の先生がどれだけ丁寧に一人一人をみているか、中学校が教科で回すことの大変さ、をそれぞれが理解し始めた。
- ・まず、壊しから始めた。離れていると必ず相手の非難になる。壁を払う。
- ・小学校と中学校の教員の垣根が取り払われて、今はすべての教員が9年間で子どもを見るようになった。
- ・小学校の先生が6年や7年に入ることもある。

〈義務教育学校のメリット2〉 9年間を通した教育カリキュラム

- ・9年通してやっていくことを定めるので、1年生の時から中3の課題から逆算してゆったり見ていける。1~9を独自に動かせる。小学校は1年間でこれをクリアしなければならないというものがある。
- ・一貫教育をしているが、英語と市民科はどこから（他校から7年に）入っても不利になることはない。
- ・教科担任制も3年生からしている。教科担任はチームで動かす。
- ・子どもに対する教師の見方が変わらないので、6から7に行くときに生徒も教員も安心感が

ある。

〈義務教育学校のメリット3〉教員の人材育成

- 教員の人材育成には大きなメリットがある。今までは小はこう、中はこうとあった。今は9年間の義務教育を考えてできる乗り入れ授業があったり、授業計画も一緒に立てたりしており、ここでずっと働きたいという教員が多い。

〈小中一貫校と義務教育学校の違いについて〉

- 義務教育学校は都内に8つ、うち6つが品川区。
- やっていることは小中一貫校と同じ。認可の区分が違う。小中隣で一貫校ですということも品川である。
- もっと進化して一緒に運営していこうとなると義務教育学校。
- 小中一貫校を見せてくれという視察が多い。それは統廃合が多いから。他にも隣接一貫校はあるが一体まではなかなかいかない。同じ建物でみんな生活するのはひと工夫必要。
- 隣同士でも移動時間が実はかかる。移動時間が少ないのは貴重なこと。これは義務教育学校の大きなメリット。

〈卒業式がないことでリーダー性が育ちにくいなどの点について〉

- 子どもの節目は必要。他の中学校に行く子もいるので、6年の終わりにアリーナで紅白幕をまわして校長が式辞をして、卒業式的にやる。各学校でいろいろ工夫してやっている。
- 学校も10周年になるので記念式は考えている。

〈イジメの悪化や固定化への懸念について〉

- やはりいじめはあって、普段の対応でしている。学年でリセットさせるとかいう問題ではないと思う。
- やはり7年生が難しい。半分は知り合っている子。他の子は知っている中に入って、お互い離れたところから近づいて行って理解しあわないといけない。しかし、これは必要なプロセスと受け止めている。7年生は落ち着くまで難しい。

〈子ども、保護者、教員の小中一貫教育についての受け止めや感想など〉

- 保護者は9割が評価するとしている。
- 新7年も現在50人くらい入りたいが入れない待機者がいる。
- 先生は異動したくないという意見が多い。ストレスチェックは平均より低い。
- 夏休みの日直は2年に1回しかまわってこない。

〈検討にあたっての着眼点、さらに参考にすべき他市の事例など〉

- 年1回小中一貫サミットあるので参加すると事例を学べる。

〈子どもの様子で一般の小中分離型と異なって評価できる点、物足りなく感じる点など〉

※子どもへの影響について（メリットとデメリット）

- 今の子どもは世代分断が進んでいて、昔と違う。上級生からすると庇護の対象がいる。下級生からするとあこがれ、ロールモデルが身近にある。昔は当たり前だったが、今はこの環境がなくなっている。
- 下級生が6年生の合唱を聞くとガラッと変わる。子どもは学校にいる時間が長い。3歳と5歳のキラキラ交流があるが、上級生の歌を聞くと、僕たちの歌も聞いてもらいたいと一生懸命に練習するようになる。
- 上級生は、0歳から3歳対象に交流する地域活動部（いわゆる中学の部活動）を7年生から9年生までしているが、とても優しく細やかに接してくれていて、成長を感じる。
- 子どもへの影響についての問いには、取りようによると思うとしか言えない。一言では言えない。どのような15歳に育てたいかのニーズによる。
- 学力の検証はない。ただ全国でも高い秋田県と同じくらい。かつてはどん底だった。7年生以上が落ち着いている。自然と勉強もする。落ち着いて健やか、これが何よりだ。

〈GIGAスクールの実施状況〉

- 品川区はタブレット、ワイファイ、電子黒板の整備をしっかりとやってきた。生徒も先生も慣れていて、今はタブレットがないと授業がうまくできない。品川区は早く入れたが市区町村でばらついている。ICT通信を出したりしている。
- 学校にパソコンに長けている人でシステム部を独自に設けている。
- また、授業にどう活用するか授業研究部を立ち上げ事例研修を重ねて、全教員にノウハウを伝授している。
- 苦手な人がいても支えるしくみをつくった。これは120人教員体制なので可能なこと。
- 普通はICT担当教員の力量で左右されるので、学校で差が出る。区ではモデル校を3校くらい決めて事例紹介している。
- 投票や意見集約などでも日常的に使える。
- 教育会という教科別の研修組織を独自につくっていて、すべての先生が教科に所属。選挙で理事を選んで代表として運営してもらおう仕組みになっているが、そこでタブレットでの研究授業もしてもらおう。横のつながりが大事になってくる。

〈学校選択制について〉

- 近隣の住所で優先地域はあるが、定員割れだと他地域から入ってくる。
- 義務教育学校も普通学校も好きな方を選べる。抽選にもれたら本来の校区に戻る。
- 接続は6から7に上がるときに半分入れ替わる。他からくる子もいる。
- どのくらい残るかは学校（地域）によって違う。八潮団地がある八潮学園は9割残る。

〈スタートまでの準備について〉

- 地域の理解が必要なので、2年のリードタイムをとる。豊葉の杜学園は5年のリードタイムをとった。納得いくリードタイムがあった方が健やかに始められる。リードタイムがとれないなら変わることは何かをはっきりすべき。
- PTA会費はどうか、会長は一人かとか。PTAもいがみ合うことがあって先生から取り持ってもらったこともあった。中より小のPTAがしっかりしているので、最初にやっておかなければならないことがたくさんある。

〈校舎施設等について〉

- 温水プールなので1年中水泳授業ができる。
- 学校が一番新しいので今まで失敗した事例をそのまま改善して作っている。とてもいい環境になっている。
- 給食調理場が施設内にあって調理の様子が見られる。配食もコンテナの移動のみ。
- 音楽教室には琴があるなど多くの楽器に触ることができる。スケールメリットにより多くの体験を積むことができる。

〈その他〉

- おいしいところから出発すればいい。品川は大分もめたから今はかなり整理された。皆さん方のところはもめるところから始める必要はない。できたものを使って始めればいい。多くの皆さん方の視察を積極的に受け入れるのは、先に始めた品川区の責任だと思っている。
- 教員不足も深刻なので、教員もフレキシブルにしないといけない。それには教員が多い方がいい。世の中が学校に振り返ってくれるまでなんとか持ちこたえようと考えている。それまでは柔軟にこの制度を使っていく。

【二葉すこやか園】 説明者：山崎園長

- 0歳から3歳が保育、4歳5歳が幼稚園で一体的に運営している。
- 公立なので保育士も幼稚園教諭も他園から異動してくるが、保育はこうとか幼稚園はこうとかいう話はするなど言っている。他からくるとカルチャーショック。
- 幼保一体施設が品川区の特長で4歳5歳がプレ学校になる。学校に行く意識が始まる。支えられる側から支える側が変わって学校に入学していく。
- 0歳から15歳までいる子もいる。小中一貫+保幼連携になっている。
- 7~9年生に部活動として地域活動部というのがあって、幼児に本を読んだり、一緒に遊んだりしている。幼児も大人とは違った存在として見ていて、校内で会うと手を振ったりする。
- 7~9年生にもとてもいい影響を与えている。庇護する者がいるということは子どもを優しい大人に成長させてくれる。
- 保育士、幼稚園教諭も成長の過程を見ることができるので、逆算して接することができる。
- 園も区立なので6年で異動（新採は3年）することが決まり。

5. 所感

- 授業中の校舎内は巡回させていただけない学校が多い中で、教室の授業風景もを見せていただいたが、先生も生徒も視察慣れしているとのことで、児童もこちらを気にする様子は全くなかった。
- 先生も生き生きしている印象を受けたが、子どももすれ違えば元気な挨拶が返ってきて、はきはきしている印象を受けた。
- 音楽室には琴があり、多くの楽器に触ることができるとのこと。スケールメリットで多くのことが出来る環境にあり、多様な学びができる学校であると感じた。
- 小中一貫校の視察は初めてであるが、義務教育学校になってはじめてメリットが具体的に見えてくると感じた。(前述のとおり)
- 「品川の学校で何が起きているのか」(2010年発行)という書籍を読んでから行ったが、情報は古くなっており、全く状況は異なっていた。確かに最初は大変だったとのことだが、今はすでに昔話であった。本市の教員にとっても不安からくる抵抗感はあるかもしれないが、豊葉の杜では今はやってよかったとの話を多く聞くことができ、しっかり準備・対応して臨めば乗り越えられる課題であると考えている。
- 学校にコミセンが併設されていて、コミュニティスクールがまさに一体となって併設されているような環境になっている。
- 教員ではない学校地域コーディネーターの方から話を伺いながら校舎を案内していただいたが、その方は小中一貫校になったときにPTA会長をしていて、そのまま学校にかかわり続けている方であった。都会だとPTAに後ろ向きな方が多いという先入観があったが、むしろ教育に高い関心を持ってボランティアで学校と関わろうとする方も多くいると感じた。
- 本市でも30年50年先を見据えた教育環境はどうあるべきか、引き続き考察を深めてみたい。